

第29回(2017年度) 支援グループ

支援金部門 18グループ

(申請数:253件) 支援金額:合計 946万円

グループ名	主な活動内容	支援金の活用内容	所在地
点訳絵本の会	点訳絵本の制作	絵本と点字シートなど	北海道千歳市
NPO法人ほんべつつつじの園	障害者が名刺やポストカードの製作に取り組む	自動名刺カッター	北海道本別町
NPO法人楽の会リーラ	ひきこもり当事者や家族の支援	ホームページリニューアル、電話機	東京都豊島区
NPO法人laule'a	肢体不自由児や医療的ケア児の放課後等デイサービス	タブレットPC	神奈川県藤沢市
新津点訳奉仕会まどかグループ	図書や情報誌などの点訳	点字プリンター	新潟市
NPO法人らびすらずり	障害者やひきこもり当事者の支援活動	スクーター	新潟市
飯山市認知症キャラバン・メイト連絡会	認知症サポーターの養成	プロジェクター、スクリーン	長野県飯山市
NPO法人おたがいさま	高齢者入所施設や通院送迎のボランティア活動	車両	岐阜県中津川市
NPO法人コーポラティブハウス木の美	若年性認知症当事者を対象とした通所介護事業所	フードドライヤー、ラミネーター	富山市
NPO法人知的障害者の暮らしを考える会	知的障害者対象の就労支援やグループホーム	新割り機、チェーンソー	富山県立山町
NPO法人セカンドハーベスト京都	生活困窮者や福祉施設に食料を届けるフードバンク	米用冷蔵庫、冷凍ボックスなど	京都市
NPO法人Homedoor	ホームレスや生活困窮者の支援活動	アルコールチェッカー、臭いセンサー	大阪市
NPO法人ころん	重症心身障害児などの通所施設	救急用品、発電機など	和歌山県田辺市
Link	中途失聴・難聴者への情報提供と啓発活動	AED訓練機とトレーニングマネキン	神戸市
NPO法人フリースクール風の里	不登校やひきこもり当事者の学習や社会参加支援	野菜加工用のユニットハウス	福岡県行橋市
化学物質過敏症患者会 くまもとCSの会	化学物質過敏症患者の交流会	VOC測定器、空気清浄機など	熊本市
NPO法人夢のかけら舎	障害者が絵画や創作活動に取り組む	アトリエの改修	熊本県菊池市
NPO法人ファーマーズポーター	障害者やひきこもり当事者が野菜の水耕栽培に取り組む	作業場の整備	鹿児島市

リサイクルパソコン部門 20グループ

(申請数:108件) 支援台数:合計 50台

グループ名	主な活動内容とパソコンの用途	所在地
パソコンボランティアプラザ室蘭	視覚障害者のパソコン操作サポートや聴覚障害者への要約筆記	北海道室蘭市
NPO法人農楽郷こ・カラダ	障害者がブルーベリーやカシスなどの栽培、加工、販売に取り組み、インターネット販売に注力	青森県十和田市
柴田町点訳サークル「はたる」	視覚障害者に図書や印刷物などを点字にして届ける	宮城県柴田町
NPO法人福島就労支援センター	障害者や高齢者を対象にしたパソコン教室の開催	福島市
音訳グループねいろ	視覚障害者に地域の話題や道路工事の情報などを音声CDにして届ける	栃木県足利市
コスモスの会	視覚障害者に図書や印刷物などをデジタル音声CDにして届ける	千葉県成田市
NPO法人Asia Commons 亜洲市民之道	団地に暮らす外国人や高齢者など孤立しがちな人々がパソコンで交流	東京都北区
NPO法人PIECES	生活困窮家庭や発達障害のある子どもを対象にしたプログラミング学習	東京都渋谷区
失語症友の会 新潟つくしの会	インターネットを活用した失語症当事者のコミュニケーション支援	新潟市
NPO法人地域生活支援サービスまあぶる	知的障害者を対象にした放課後等デイサービスやグループホームなどの緊急時連絡体制の整備	静岡市
ひきこもりサポートセンターこだま	ひきこもり当事者や家族の支援活動を充実させる	静岡県浜松市
認定NPO法人四つ葉のクローバー	児童養護施設を退所した学生や社会的養護が必要な若者のパソコンスキル習得	滋賀県守山市
NPO法人ゆに	聴覚障害のある生徒や学生を対象にした授業のノートテイク・要約筆記	京都市
点訳グループ「あい」	視覚障害者に図書や印刷物などを点字にして届ける	大阪府吹田市
要約筆記ボランティア「三田サマリー」	聴覚障害者への情報保障として、パソコンでの要約筆記や映像への字幕付けなど	兵庫県三田市
テキスト訳グループ「あいフレンド」	視覚障害者に印作物やPDFの文章をテキストデータにして届ける	福岡市
朗読の会セブン	視覚障害者に図書や印刷物をデジタル音声CDにして届ける	福岡市
朗読ボランティアグループ虹の会	視覚障害者に図書や印刷物などを音声CDにして届ける	佐賀県基山町
パソコン要約筆記「pcながさき」	聴覚障害者への情報保障として、パソコンでの要約筆記やノートテイクなど	長崎県長与町
NPO法人ワークショップひなたぼっこ	知的障害者の就労に役立つパソコンスキルの習得と向上	熊本県天草市

東日本大震災復興支援部門 4グループ

(申請数:22件) 支援金額:合計 236万円

グループ名	主な活動内容	支援金の用途	所在地
ペンギンアート工房	障害のある子どもたちが絵画や陶芸などに取り組む	さをり織機	宮城県石巻市
仙台かえりびなの会	かえりびなの制作を通じた被災者同士の交流活動	ミシン	仙台市
NPO法人20世紀アーカイブ仙台	昭和の映像や写真を使ったコミュニケーション支援	スクリーン、プロジェクターなど	仙台市
NPO法人しんせい	避難してきた障害者の就労支援	車いす対応の花壇などの整備	福島県郡山市

第30回

NHK厚生文化事業団

地域福祉を支援する わかば基金

2018年度 (平成30年度) 募集要項



3つの方法で、ボランティアグループやNPOの活動を応援します

支援金部門

リサイクルパソコン部門

災害復興支援部門

「わかば基金」は、地域に根ざした福祉活動を展開しているグループが、活動の幅を広げるための支援をしています。

これまでに、709グループに「支援金」や「リサイクルパソコン」を贈呈してきました。

また今回より、自然災害の被災地の再生・復興に尽力しているグループを応援する部門も設けました。

福祉にとって厳しい時代だからこそ、

「わかば基金」は地域に芽吹いた活動をもっと応援していきます。

多くのグループからの申し込みをお待ちしています。

主催
後援
協力

社会福祉法人 NHK厚生文化事業団

NHK

NHK関連団体、NPO法人 イー・エルダー

募 集 部 門



支援金部門

1グループにつき、最高100万円
(10グループほどを予定)

対象

国内のある一定の地域に福祉活動の拠点を設け、この支援金でより活動を広げたいというグループ。

対象となる活動例

地域の高齢者や障害者、生活困窮者などの日常生活を支援したり、さまざまなサービスを提供している。
(在宅か施設かは問いません)

障害者の社会参加や就労の場づくりの促進、またその活動の支援にあっている。

文化・芸術活動などを通じて、障害や年齢の枠をこえた交流や相互理解をはかっている。

対象外

- 「わかば基金」の申請と同じ内容で、行政や他財団等の助成を受けている、もしくは受ける予定。
- 法人格を持っている。(NPO法人は申請可)
- 人件費、謝礼、家賃、交通費、グループ運営などのランニングコストや事務経費。
- 設立資金。

※パソコンを希望するグループはリサイクルパソコン部門に申請してください。支援金でのパソコン購入はできません。



リサイクルパソコン部門

ノートパソコン 総数50台程度
(贈呈台数: 1グループにつき、3台まで)

対象

パソコンを利用して地域で活発な福祉活動に取り組んでおり、台数を増やすことで、より高齢者や障害者に役立ち、活動の充実を図れるグループ。
※なお、このリサイクルパソコンは、NHKとNHK関連団体の協力を得て提供します。

対象となる活動例

地域の高齢者や障害者、生活困窮者などへパソコン指導のサービスを提供している。
(在宅か施設かは問いません)

障害者の社会参加や就労の場づくりの促進、またその活動の支援にあっている。

要約筆記や字幕、音声や点字などでの情報保障。

福祉情報の提供やネットワークづくりを通して、地域の福祉活動の向上につとめている。

対象外

- 法人格をもっている(NPO法人は申請可)。
- 職員やスタッフなどが行う運営業務や事務処理での利用。

注意点 (必ずご確認ください)

- パソコンはリサイクル(クリーニング・メンテナンス済)したものです。機種は選べません。
- 搭載予定ソフト(正規版を新たにインストール)
OS = Windows 10 Home Premium
アプリケーション = Office 2016 Personal (Word, Excel, Outlook)
- 無線LANの内蔵・外付けは選べません。
- 設置はグループで行ってください。

■リサイクルパソコンについては、下記の贈呈条件をご理解ください。
①初期故障対応を除いて、贈呈するパソコンについての保証は一切ありません。②該当パソコンを他の団体、個人、海外の団体や企業などへの譲渡または販売などは禁じます。③寄贈後に当該パソコンから生じる一切の責任は寄贈を受けた団体にあり、使用の結果生じるいかなる損害賠償も請求できません。④原則として、当該パソコンの返品や交換には応じられません。⑤当該パソコンが不要になった場合は、寄贈を受けた団体の責任ですべてのデータを消去しうえ適切な産業廃棄物処理をしてください。⑥すでにインストールされているソフトウェアの使用にあたっては、マイクロソフト社の定める事項を遵守してください。



災害復興支援部門

1グループにつき、最高100万円
(5グループほどを予定)

対象

- ◆東日本大震災以降に激甚災害指定を受けた災害の被災地域に活動拠点があり、その地域の復旧・復興をすすめているグループ。
- ◆被災地に必要な新たな福祉事業を展開したい、と考えているグループ。

対象となる活動例

被災地域で暮らす高齢者や障害者、生活困窮者などの日常生活を支援したり、さまざまなサービスを提供している。
(在宅か施設かは問いません)

新たな事業を展開するために必要な物品をそろえたい。

福祉情報の提供やネットワークづくりを通して、地域の生活再建・福祉向上につとめている。

対象外

- 法人格をもっている(ただし、NPO法人は申請可)。
- 人件費、謝礼、家賃、交通費、グループ運営などのランニングコストや事務経費。
- 設立資金。

※パソコンを希望するグループはリサイクルパソコン部門に申請してください。支援金でのパソコン購入はできません。

申し込み方法

申請書の「記入上の注意」をよく読み、必要事項を漏れなくご記入のうえ、お申し込みください。
(申請書はホームページからダウンロードできます▼)

- *支援金部門、リサイクルパソコン部門、災害復興支援部門のいずれかを選んでご記入ください。(複数部門への応募は受け付けません)
- *日本国内に活動拠点があるグループを対象とします。 *郵送のみ受け付け。(FAX・メール不可)
- *申請書は必ず、第30回のものでご使用ください。(以前の用紙では受け付けません)
- *グループの資料などの添付の有無は、支援決定に影響はありません。

<https://www.npwo.or.jp>

ただし、①2016年度の収支報告書(活動計算書など)※A4用紙1枚にまとめたもの/対象: 全部門 ※2016年度のものがない場合には、2017年度の収支見込みが分かるもの

②使用項目の見積書/対象: 支援金部門・災害復興支援部門 ※見積書が出せないものは予算書 を必ず添付してください。

*お送りいただいた応募書類や関係資料はお返ししません。予めご了承ください。

*申請書に記載された連絡先などの情報は、適正に管理し、わかば基金に関係する連絡のために利用させていただきます。

*記入された申請書はコピーを取って、お手元に保管してください。

申請受付期間

2018年2月1日(木)~3月30日(金)必着

郵送のみ

選考

当事業団内に設けられた選考委員会で審査のうえ、支援先を決定します。

結果発表

2018年6月末に、申請したグループに文書で通知します。

※なお、選考結果や選考内容などのお問い合わせには応じられませんのでご了承ください。

選考委員 (五十音順 敬称略)

同志社大学 教授	上野谷 加代子
NPO法人 JHP・学校をつくる会 代表理事	小山内 美江子
社会福祉法人 オリーブの樹 理事長	加藤 裕二
株式会社ユーディット 会長	関根 千佳
社会福祉法人 全国社会福祉協議会 地域福祉部長	高橋 良太
東京学芸大学 名誉教授	松矢 勝宏
NHK制作局 制作主幹	
NHK厚生文化事業団 理事長	

必ずご確認ください

- 次の事由による場合には支援金の返還を求められます。①支援金により取得した物件・物品などを申請目的に反して使用、譲渡、貸し付け、または廃棄した場合。②年度内にNPO法人以外の法人格を取得される場合。
- 支援先に選ばれたグループには、活動の様子について放送などの取材に協力していただく場合があります。
- 支援金は2018年7月から2019年3月までの間に必ず活用し、その様子を報告いただきます。
- リサイクルパソコンは、2018年8月頃に寄贈を予定しております。到着から2019年3月までの間に必ず活用し、その様子を報告いただきます。

申し込み問い合わせ先

社会福祉法人 NHK厚生文化事業団「わかば基金」係
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-4-1

TEL 03-3476-5955 (平日10:00~18:00)

mail info@npwo.or.jp

第30回 わかば基金 申請書

申請部門 (いずれかに☑)	<input type="checkbox"/> 支 援 金 部門	<input type="checkbox"/> リサイクルパソコン 部門	<input type="checkbox"/> 災 害 復 興 支 援 部門	
申請内容	希望金額 万円 (上限100万円)	希望台数 台 (上限3台)	希望金額 万円 (上限100万円)	
申請理由				
申請内容 詳細	使用項目	金 額	使用項目	金 額
		円		円
		円		円
		円		円
		円		円
	合計	円	合計	円
※別途見積書か予算書を添付してください		申請パソコン の 主な利用者	※別途見積書か予算書を添付してください	
		現保有台数	台	

グループ名	代表者役職：		代表者名：	
	ホームページ・facebook等のアドレス：			
グループの 所在地	〒 - 都 道 府 県			
	電話： ()	FAX： ()		
連絡先 (申請担当)	〒 - 都 道 府 県			
	担当者役職：		担当者名：	
	電話： ()	FAX： ()		
	携帯： ()	e-mail：		
現在の グループの 所属人数	【内訳】 専任スタッフ： 人(有償： 人 無償： 人)			
	ボランティア： 人(有償： 人 無償： 人)			
【スタッフ構成の特徴】(男女比・年齢構成・専門分野など)				
活動の対象	活動の主な 対象者と人数	主な 活動地域		
発足日	【発足】 西暦 年 月 日			
発足から これまでの 経緯 (活動の趣旨等)				
2016年度 収支概要 ①項目は大まかに まとめたもので 構いません ②作業(就労)会 計の収支がある 場合はご記入 ください	収入項目	金 額(円)	支出項目	金 額(円)
	②作業(就労)会計の収入		②作業(就労)会計の支出	
合計		合計		

※別途2016年度の収支報告(活動計算書など)の詳細(A4用紙1枚にまとめて)を添付してください。2016年度のものが無い場合は2017年度の収支見込みが分かるもの。

記入上の注意(募集要項の「申し込み方法」と合わせて必ずご確認ください)

- ①各項目をもれなく記入してください(鉛筆不可)。なお、同形式であればパソコンで作成してもかまいません。
- ②複数部門への申請は受け付けられませんのでご注意ください。
- ③申請書には、直接資料の貼り付けなどは、しないでください。
- ④収支報告(活動計算書など/A4用紙1枚にまとめて)ならびに、「支援金部門」と「災害復興支援部門」に申請されるグループは見積書もしくは予算書を必ず添付してください。
- ⑤申請書に記載されたご連絡先などの情報は、わかば基金に関する連絡以外には利用いたしません。
- ⑥申請書は、A3用紙1枚にして提出してください。
- ⑦申請書は必ずコピーを取り、保管をしておいてください。

※事務局使用欄		①	②
1-	コード		
2-	コード		
3-	コード		

■過去に「わかば基金」の 支援を受けたことがある(第 回) 申請したことがある 今回が初めて(いずれかに☑)

①現在の詳しい活動状況(活動の特徴と内容)、②支援の必要性、③支援を受けた後の効果と将来的見通し、を下記記入欄にお書きください。

【活動状況】

【支援の必要性】

【支援の効果と将来的見通し】

■災害復興支援部門に申請される団体は、激甚災害指定された災害名と年度、被災状況を下記にご記入ください。

■グループの活動が、放送や新聞などで取り上げられたことがあれば、下記にご記入ください。

■他団体からの助成金等について

【自治体(市町村など)からの「補助金」】
申請中 無 有 補助金受領年度(年度) 名称() 金額(円)
過去 無 有 補助金受領年度(年度) 名称() 金額(円)

【民間助成金など(財団、社会福祉協議会等)】
申請中 無 有 助成金受領年度(年度) 名称() 金額(円)
※申請中の助成の活用方法()
過去 無 有 助成金受領年度(年度) 名称() 金額(円)
(直近のもの) 無 有 助成金受領年度(年度) 名称() 金額(円)